

日本未熟児新生児学会 平成25年度 総会議事録

日 時：平成25年11月30日（土）13：30～14：10

場 所：石川県立音楽堂2階コンサートホール（第1会場）

議 事

I. 報告事項

1. 理事長挨拶（戸荊理事長）

2. 会長挨拶ならびに報告（久保会長）

第58回学術集会プログラム内容等について久保会長から挨拶があった。

3. 庶務報告（本間幹事）

・新入会者，退会者の件

平成25年8月に逝去された功労会員八代公夫先生に黙祷が捧げられた。

全会員数3,257名（昨年報告数3,277名），非医師数79名，名誉会員27名，功労会員57名，理事20名，評議員197名，購読会員31件，新入会員272名，退会292名などが報告された。

平成24年度末資格喪失者は88名であった。

・会費滞納者の件

資料に基づき，平成25年度退会予定者123名について報告された。平成23年度以降会費が未納で，2月の請求後，10月に再請求を行ったが，11月1日現在振込がないため12月末日までに振込がない場合には資格喪失退会となる。

4. 各種委員会報告

1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会（戸荊委員長）

平成25年3月に通信で学会賞選考委員会が開催され，小泉亜矢先生（群馬大学大学院周産母子センターNICU）の「超音波断層法を用いた末梢穿刺中心静脈カテーテル関連血栓症の検討」が採択された。11月30日（土）14：10～14：30 第1会場にて受賞記念講演が行われる。

2) フェローシップ選考検討委員会（戸荊委員長）

今年度のアツヴィフェローシップ（AJフェローシップから改名）採用者49名（演題）について資料に基づき報告があった（昨年は61名）。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印を付し，採用者は懇親会会場および演題発表時に「アツヴィフェローシップ」の赤い名札を着用しているので，温かい声かけをと呼びかけられた。また，佐多フェローシップ留学体験は12月1日（日）11：30～11：40 第2会場にて「英国で学んだ科学的思考」と題し岩谷壮太先生に報告を行っていただく。

3) 薬事委員会・新生児の輸血問題小委員会（伊藤委員長・小山委員長）

・ドキサプラム塩酸塩水和物注射液の供給継続に関する要望書（案），チョコラA（錠，滴，末）の継続提供要望書を学会から提出することが決定した。

・B型肝炎予防のために出生直後に行うHBグロブリンとHBワクチンの打ち方が変わる（HBグロブリンは出生後12時間以内に1回，HBワクチンは出生後12時間以内，1カ月，6カ月）のでご注意ください。

・日赤から今年4月より交換輸血の合成血供給が6時間以内に可能になったと報告があったので，優先して使用していただきたい。日赤は，合成血使用の可能性が考えられた段階で，早めの連絡をいただきたいとのことである。また，学会ホームページで血液が供給されたかどうかなどの調査を開始している。交換輸血を行っている方はぜひご登録いただきたいと呼びかけられた。

- 4) 雑誌編集委員会（千田委員長）
2013年受付投稿原稿は29編で例年通りの投稿数であった。
- 5) 教育委員会（中村委員長）
福島県猪苗代町で行われた第17回教育セミナーのワークショップ発表会が12月1日10:40～11:30に第2会場で発表される。来年の第18回教育セミナーは平成26年8月21日（木）～23日（土）に長野県のほりで一ゆ～四季の郷で開催するが、その前日に初期研修医を対象にしたセミナーも合わせて開催予定にしている。
- 6) 社会保険委員会（中尾委員長）
平成26年度診療報酬改定に向けての要求項目は中医協で現在審議中である。公知申請等によりHBγグロブリンワクチンとHBワクチンの投与方法の変更が保険で認められた。またシナジスが保険適応となった。
- 7) 医療器材の安全性確認委員会（猪谷委員長）
学会ホームページから医療器材の不具合について情報登録できるようになった。まだ実際に登録はなく、積極的な利用が呼びかけられた。
- 8) サーベイランス委員会（久保委員長）
希有疾患サーベイランスは、ダウン症候群に合併した一過性骨髄増殖症（TAM）が平成25年3月1日で調査を終了した。現在は急性期離脱後の極低出生体重児に対する溶血性貧血、先天性間質性肺疾患について調査中で順調に登録されている。
- 9) 規約改定委員会（上谷委員長）
法人化について、来年度からの新理事会で検討を行っていく予定である。
- 10) 学術集会の在り方検討委員会（梶原委員長）
例年通り第58回学術集会のアンケート調査について回答が呼びかけられた。
- 11) 広報委員会（側島委員長）
従来発行していた紙媒体での会員名簿の発行を廃止し、会員専用ページに会員検索システムを導入した。医療器材の不具合報告や交換輸血・合成血の実態調査に関する内容もホームページに掲載しているため、活用が呼びかけられた。
- 12) 倫理問題検討委員会（田村委員長）・利益相反小委員会（和田委員長）
COI指針について理事会・評議員会で承認を得たので来年1月から運用予定である。
- 13) 医療の標準化検討委員会（楠田委員長）
 - ・厚生労働科学研究「周産期医療の質と安全の向上のための研究」は今年で3年目を迎え順調に進んでいる。
 - ・早産児の鉄剤投与のガイドラインの改訂作業、藤村班で行っていた新生児臨床研究ネットワークデータベースの10年間の記録集を作るために小委員会を設けて実施する。
- 14) 医療訴訟問題検討委員会（板橋委員長）
特になし。
- 15) 医療提供体制検討委員会（茨委員長）
全国の新生児医療施設の人的支援、新生児搬送体制、バックトランスファーの現状を調査する予定。調査の際は協力をお願いしたい。
- 16) 感染対策／予防接種推進室（北島室長）
 - ・HBワクチンの新基準については小児科学会からの報告を待っているところである。
 - ・タミフルの乳児への使用に関する適応拡大について本学会からも要望書を出したいとの提案があり継続審議となった。詳細は委員会で検討を行う予定である。
- 17) 男女共同参画推進委員会（和田委員長）
新しい評議員に女性を推薦していただくよう要望し、平成26年度は10名以上誕生した。今回の学術集会

でも3日目：12月2日9：00～11：00第2会場にてシンポジウム「男女共同参画委員会企画—キャリアを育むために—」を開催予定である。

18) 災害対策委員会（和田委員長）

- ・災害時の連絡網については、新生児医療連絡会ホームページを通じて登録していただいている。
- ・救児基金はニコニコキャンプと気仙地区のロタワクチン無料接種実施事業に支出している。

19) 産科医療補償制度対応委員会（板橋委員長）

周知活動の結果、補償される児も増えたが、まだ予定よりも申請が少ないため、対象と考えられる場合には年内に申請をお願いしたいと呼びかけられた。5年目を迎え、産科医療補償制度の見直しが運営委員会を中心として進んでいるが、まだ正式なことは決まっていない。

5. 新／名誉・功労会員の件（戸荊理事長）

著名な先生方の退任につき、残念であるがお認めいただきたい旨理事長より呼びかけがあり、承認された。戸荊 創先生と山南貞夫先生は評議員を継続する。この後、新名誉・功労会員に感謝状をお渡しする。

新名誉会員：伊藤 進先生

新功労会員：田澤雄作先生、樋口隆造先生、前多治雄先生、山崎 明先生

6. 役員選挙の件（戸荊理事長）

告示日12月3日（火）／投票締め切り12月18日（水）／開票12月19日（木）午後3～6時の予定で役員選挙を行う。次期評議員219名の中より15名の理事、2名の監事を選出し、年内または年明けに新理事会を行う予定である。選挙管理委員は、河井昌彦先生、白石 淳先生、芳本誠司先生の3名である。

II. 協議事項

1. 平成24年度決算に関する件

平成24年度一般会計、特別会計（会員名簿のための積立金、事務所移転積立金、学会賞基金、佐多フェローシップ、AJフェローシップ、総会補助金）各決算について資料に基づき説明が行われた。船戸監事・堺監事による監査報告も行われ承認された。

2. 平成26年度予算に関する件

資料に基づき本間幹事より説明・報告が行われ、承認された。

3. 次期評議員に関する件

次期評議員219名が理事長から報告があり、承認された。

4. 日本未熟児新生児学会 利益相反指針（案）の件（和田理事）

資料に基づき和田理事より説明が行われ、承認された。

5. 次期会長に関する件

次期会長に梶原真人理事が選出された旨報告があり、承認された。

6. 次期副会長に関する件

次期副会長に千田勝一理事が選出された旨報告があり、承認された。

7. その他

大木 茂評議員より最近マスコミに取り上げられているMRSAの感染について学会として声明を出す必要があるのではないかとの要望があり感染対策／予防接種推進室で対応することになった。

Ⅲ. 新/会長・副会長挨拶

新会長：梶原真人理事（愛媛県立中央病院）

2014年11月10日（月）～12日（水）にひめぎんホール（愛媛県県民化文会館）にて「温故知新」をテーマに開催予定である。

新副会長：千田勝一理事（岩手医科大学小児科学講座）

副会長として梶原理事を支えていく所存である。

Ⅳ. 感謝状の贈呈

新名誉会員の伊藤 進先生，新功労会員の山崎 明先生に賞状が授与された。

Ⅴ. 学会賞受賞者への賞状の贈呈

群馬大学大学院周産母子センター NICU の小泉亜矢先生に，賞状と賞金が授与された。